

全視情協通信 / な い - ぶ	1997/5/10
<b>NAIIV</b>	<b>No. 11</b>
発行 発行責任者 川越 利信	
<b>全国視覚障害者情報提供施設協議会(全視情協)</b> (社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会)	
事務局 〒550 大阪市西区江戸堀 1 - 13 - 2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内 Tel. 06 - 441 - 0015 Fax. 06 - 441 - 0039 E-mail: HBD00035@niftyserve.or.jp	

主 な 内 容

● 全視情協 平成 9 年度事業計画.....	2
1 基本事業方針	
2 各委員会活動計画	
3 年間計画 (主な行事)	
4 その他	
● 役員および委員名簿 .....	8
● 平成 9 年度予算 .....	10
● 施設名称・所在地等の変更 .....	10
● 訂正とお詫び .....	10
● 平成 9 年度 点字指導員講習会 (開催要項・日程) .....	11
● 平成 8 年度 各委員会活動報告 .....	14
● 平成 8 年度 全視情協の歩み .....	23
● D A I S Y、プレクストークの国際中間評価会議、京都で開催 .....	24

全国視覚障害者情報提供施設協議会（全視情協）  
（社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会）

## 平成9年度 事業計画

### 1 平成9年度基本事業方針

テーマ：「点字図書館の役割・機能の抜本見直し」

視覚障害者情報提供施設への脱皮をめざして

平成9年度および10年度は、平成5年度からあらかじめ予定されていた長期基本計画に沿って、「点字図書館」の役割と機能について抜本的に見直す作業を行うことをあらためて決定しました。この決定は、平成8年度の全国点字図書館大会を経て、企画委員会（平成9年3月9日）、運営委員会（平成9年3月27日）で再確認されたものです。

「点字図書館」のあり方の見直しは、本当は平成5年に検討を開始すべきであるとの意見もありました。特に、前・全点協会長の田村 實氏は「点字図書館」の将来のあり方を危惧し、見直しを急ぐようと、会長業務引継ぎに際し、強く主張されたうちのお一人でした。

しかし、全視情協にはネットワーク促進の重要課題があり、結局、次のような長期6か年計画に落ち着きました。

そして、本年度、「点字図書館」のあり方を抜本的に見直すことになりましたが、どう見直すかが問題です。以下の3点は、本年度の見直し作業の重点項目として早急に取り組む必要があるテーマです。

#### 長期（6か年）基本事業計画

#### 点字図書館ネットワーク構築 2期4か年計画と

#### 点字図書館の役割・機能の抜本見直し 2か年計画

年 度	期	テ - マ
平成5～6年度	第1期	基礎の構築
平成7～8年度	第2期	システム形成・構築、サービスの標準化
平成9～10年度		点字図書館の役割・機能の抜本見直し

### (1) 求められる視覚障害者情報ネットワークのシステム化

視覚障害者情報提供施設ネットワークの構築のために私たちは、長年、努力してきました。重複をいかに避けるか、相互貸借をどうするかなどからはじまって、役割分担、人的交流など、ネットワークの内容は幅広いものです。有効なネットワークを形成するための標準化の作業には、加盟施設の相互協力が欠かせません。

視覚障害者情報提供施設ネットワーク構築のために、いくつか大事なポイントがあります。そのひとつが、機械化です。コンピュータや通信システムを用いたマルチ・メディアの時代をにらんだ機械化を早急に成立させ、実用化することです。そして、情報提供施設の機能と役割をより発揮でき、視覚障害者にとって利用しやすいシステムとなるよう研究し、併せて技術ならびに運営の確立・安定に向けて、協力し合う必要があります。

ネットワークは、点字情報（点訳データ、つまり原本等資料の内容＝1次資料、タイトル・作者等書誌データ＝2次資料、の両方を含む）、音声情報（DAISYなどの録音図書等）、そして、視覚障害者に関する情報、また、視覚障害者が必要とする就職、入学、訓練、ボランティア等に関する情報を含む、視覚障害者に関する総合的なシステムであればさらに望ましく、より有効です。つまり「点字図書館ネットワーク」を越えた「視覚障害者情報ネットワーク・システム」であることがより望ましいといえます。

### (2) 「視覚障害者情報提供施設」としてのサービスをめざして

平成8年度に協議会名称を「全国視覚障害者情報提供施設協議会（全視情協）」に改称しました。ねらいは、各地におけるより確かな情報拠点として、高度情報社会に対応できる施設への脱皮であります。

「点字図書館」の法的根拠は、身障法第33条「視聴覚障害者情報提供施設」であり、身体障害者更生援護施設における分類としては「地域利用施設」です。法的根拠にしたがって、「点字図書館」としてではなく、「視覚障害者情報提供施設」としての「運営設置基準」の具体案の提言を厚生省に対して行うなど、制度としては未整備状態の音声情報（録音図書等）部分の制度化も含めて、高度情報社会に対応できる、そして、各地域における情報拠点をめざし、脱皮していきたいものです。

### (3) 視覚障害者情報問題研究委員会の設置、開催

「点字図書館」が「視覚障害者情報提供施設」として、各地における情報の拠点として高度情報社会に対応しながらノーマライゼーションの実現に貢献していくためには、社会の理解と支援が必要です。

当事者団体である全視情協の枠を越えて、利用者、学識経験者などにも参加してもらって、「視覚障害者情報問題研究委員会」を設置、開催して、視覚障害者の情報問題を広い視点から議論し、検討を深める必要があります。そして、社会の理解と支援を得ながら、視覚障害者の情報障害の状態を補完し、ノーマライゼーションの実現に寄与する施設作りと運営サービスをめざすことが必要です。

## 2 各委員会活動計画

### (1) サービス委員会

1. 第15回全国視覚障害者情報提供施設実態調査
2. 上記調査の集計・分析及び報告書作成
3. 「点字雑誌一覧」「録音雑誌一覧」の編集・発行
4. 視覚障害者情報提供施設サービス等の見直し・検討  
委員会開催予定 6回

### (2) ネットワーク委員会

目標 書誌データ管理システムの年度内完成

1. 書誌データ管理システム完成に向けての委員会開催(5回)
  - ・各委員会から代表1名が参加する
2. モデル地区で研修会開催
  - ・中部地区で研修会開催(1泊2日の研修)
  - ・指導できる人を養成する

ネットワーク委員会は、機械化委員会を改称したものです。

### (3) 点訳委員会

1. 平成9年度点字指導員講習会(指導員研修会)  
要綱等 別紙の通り  
作業日程 5月上旬 案内状発送  
5月末 申し込み締め切り  
6月上旬 受講候補者の決定  
6月末 課題文締切  
7月上旬 受講者決定
2. 校正問題集の編集・発行  
平成8年度の「点訳問題集 例文編」に続き、9年度は「校正問題集」を編集・発行する。
3. 点訳委員会開催  
4月上旬(1日) 関東小委員会(点字指導員講習会課題文の選定)  
中部小委員会(指導カリキュラムの原案作成)

- 4月中旬（1泊2日） 点訳委員会  
 （1）案内状、要項の決定  
 （2）課題文の決定（取扱説明書、学習参考書、図表、パソコン関係資料）  
 （3）点字指導カリキュラム検討（長期講習会、短期講習会用）  
 （4）その他
- 7月上旬（1日） 関東小委員会（課題文評価、点訳例原案作成）
- 7月中旬（2泊3日） 点訳委員会  
 （1）課題文の評価、点訳例の決定  
 （2）指導カリキュラム作成  
 （3）グループ学習検討  
 （4）当日役割分担等  
 （5）その他
- 10月中旬（2泊3日） 点訳委員会  
 校正問題集編集・検討
- 10年1月（2泊3日） 点訳委員会  
 校正問題集編集  
 平成10年度点字指導員講習会（資格認定講習会）準備
- 3月（1泊2日） 点訳委員会  
 校正問題集編集  
 平成10年度点字指導員講習会（資格認定講習会）準備

#### 4. 資格化に向けての活動

仮称「点訳士」の国家資格化にむけて、日盲社協の資格委員会に参画し、提言を行い、促進を図る。

##### （4）録音委員会

現在の録音委員会の活動は、「音訳指導員資格認定講習会」およびその関連資料の作成が中心である。しかし、平成8年度より急速に録音図書デジタル化が明確となり、録音委員会も資格認定講習会と並行して、録音図書デジタル化のための全国的な各施設の状況調査を踏まえた上での推進方法の検討など、各種の作業に迫られている。しかし、委員会開催回数、委員の特性などの様々な点を考慮すると、従来の活動内容と並行しての作業は困難である。従って、現在の委員会を二つの班に分け、それぞれのテーマにそった活動を行うことがより合理的な方法と考えられる。

録音委員会の従来活動は「音訳指導員資格認定作業班」とし、新たに「デジタル録音調査・推進班」を設け、録音図書デジタル化への移行のための調査・研究ならびに推進を行う。

A 音訳指導員資格認定作業班（委員会 4 回開催）

認定講習会の実施、「音訳・録音マニュアル - 活動するあなたに -」の改訂など、読みに関する技術をテーマとして活動する。また認定講習会、マニュアル改訂などに当たっては、必要に応じて外部の有識者の力を活用する。

第16回音訳指導技術講習会（第2期音訳指導員資格認定講習会 前期）の実施

「音訳・録音マニュアル - 活動するあなたに -」の改定検討

「デジタル録音調査・推進班」との調整

B デジタル録音調査・推進班（委員会 4 回開催）

デジタル化のための基礎調査、推進・普及方法などの検討、また普及に必要な講習などを実施する。基本的な活動を次の通り2期に分ける。

第一期：調査、研究期間（1年間）

「音訳指導員資格認定作業班」との調整

視覚障害者情報提供施設の録音図書製作状況の把握（設備、予算、製作状況、ボランティアの活動状況）

- ・現在の録音図書製作の状況把握
- ・人的、予算的に導入が可能か？
- ・デジタル移行過渡期にあたって新旧の録音方式で製作継続が可能か？
- ・職員がデジタル機器操作に対応できるか？
- ・ボランティアが機器操作に対応できるか？

デジタル録音に関する担当職員の意識調査

- ・機器に対する知識（何がわかって、何がわからないか）
- ・デジタル録音方式に対する認識（いつ頃を移行時期と考えているか？）
- ・デジタル化の方向性に対する認識（必要性の認識）

デジタル録音方式、機器に対する動向調査（各種市販機器）

- ・市販デジタル録音機の調査

DAISY（プロ）に対する要望のとりまとめ

製作基準の検討・作成

第一期のメンバーは、DAISY導入施設職員を中心とする。

第二期：推進期間 = PR・教育期間（2年～3年間）

マニュアルの改訂（「音訳・録音マニュアル - 活動するあなたに -」）

製作システムの紹介、講習会の実施

第二期は普及と教育を考え、ブロックを考慮したメンバー構成とする。

委員会開催地

音訳指導員資格認定作業班（東京 3 回、大阪 1 回）

デジタル録音調査・推進班（東京 2 回、名古屋 2 回）

### 3 全視情協 年間計画（主な行事）

（1） 第23回全国視覚障害者情報提供施設大会（全視情協大会）

開催日 平成9年9月25日（木）～26日（金）

会場 北海道帯広市

主管 北海点字図書館

要綱、日程等は現在作成中。

（2） 平成9年度点字指導員講習会（指導員研修会）

開催日 平成9年8月27日（水）～29日（金）

会場 アルカディア市ヶ谷

〒102 東京都千代田区九段北4丁目2-25

担当 点訳委員会

開催要項、日程については別紙参照。

（3） 第16回音訳指導技術講習会（第2期音訳指導員資格認定講習会前期）

開催日 平成9年11月（予定）

会場 大阪市内

担当 録音委員会

要綱、日程等は現在作成中。

### 4 その他

（1） 「視覚障害者情報問題研究委員会」の設置

各地における視覚障害者のための情報拠点として、高度情報社会に対応できる情報提供施設作りをめざす。

（2） 「デジタル化移行にともなう製作・処理センター」構想の検討

デジタル音声情報システム促進委員会が中心になって、現有のアナログ・マスターテープをDAISY様式のデジタル・システムに効率的に変換するための集中処理センターを設置するという提案が行われている。本協議会としては、この提案の検討を早急に行わなければならない。

（3） DAISYコンソーシアムの推進

デイジー・システムの国際標準化をめざして、デイジー・コンソーシアムの促進を図る。

## 平成9年度 役員および委員名簿

### 役員

会長	川越 利信	日本ライトハウス盲人情報文化センター（館長）
副会長	藤野 克己	視覚障害者生活情報センターぎふ（館長）
	田中 徹二	日本点字図書館（館長）
運営委員	川越 利信	
	藤野 克己	
	田中 徹二	
	後藤 市郎	北海点字図書館（館長）
	小口 継明	神奈川県ライトセンター（所長）
	金津 和栄	ライトハウス・ライブラリー（館長）
	菊野 幸雄	鹿児島県点字図書館（館長）
	中山 十郎	徳島県立盲人福祉センター（館長）
	西田 洋一	熊本県点字図書館（館長）
	橋本 宗明	カトリック点字図書館（館長）
	水口 武夫	京都ライトハウス点字図書館（館長）
	盛田 義弘	石川県視覚障害者情報文化センター（館長）
監事	小寺 岩夫	岡山県視聴覚障害者福祉センター（所長）
	千田 米蔵	千葉点字図書館（館長）

### サービス委員会

（委員長）	小野 俊己	日本点字図書館
（委員）	工藤 孝雄	日本ライトハウス盲人情報文化センター
	川崎 弘	千葉点字図書館
	高見 伸枝	三重県点字図書館

### ネットワーク委員会

（委員長）	河村 宏	日本障害者リハビリテーション協会
（委員）	荒川 朋子	石川県視覚障害者情報文化センター
	秋葉 博子	千葉点字図書館
（特別委員）	水野 舜	金沢工業大学情報工学科



## 点訳委員会

- (委員長) 染谷 洋子 カトリック点字図書館  
 (委員) 伊藤 邦子 日本点字図書館  
 高橋 恵子 千葉点字図書館  
 山田 智直 視覚障害者生活情報センターぎふ  
 水谷 吉文 天理教点字文庫  
 櫛 玲子 大阪府盲人福祉センター点字図書館

## 録音委員会

- (委員長) 村井 晶人 日本ライトハウス盲人情報文化センター  
 (委員) 天野 繁隆 日本点字図書館  
 矢口 町子 茨城県立点字図書館  
 兄父由紀子 福井県視力障害者福祉協会点字図書館  
 熊谷 成子 静岡県点字図書館  
 河合 和美 名古屋ライトハウス盲人情報文化センター  
 檉浦 勝彦 埼玉県盲人福祉ホーム埼玉点字図書館

(DAISYコンソーシアム担当)

- 河村 宏 日本障害者リハビリテーション協会  
 (特別委員) 池田 防守 プレクスター株式会社

## 企画委員会

- (委員長) 川越 利信  
 (委員) 後藤 市郎  
 藤野 克己  
 田中 徹二  
 小野 俊己  
 河村 宏  
 染谷 洋子  
 村井 晶人

## 日盲社協 情報サービス部会 平成9年度 予算

委員会名	予算額	内 訳
サービス委員会	450,000	委員会費（6回、交通費・宿泊費） データ入力外注費 諸経費（切手代、用紙代、コピー代）
ネットワーク委員会	450,000	委員会費（5回、交通費・宿泊費） モデル地区研修 システム・バージョンアップ ノートパソコン
点訳委員会	450,000	委員会費（8回、交通費・宿泊費） 点字指導員講習会不足分
録音委員会	450,000	委員会費（8回、交通費・宿泊費） 事務費（通信、印刷費等）
企画委員会	100,000	委員会費（5回、交通費・宿泊費）
運営委員会	100,000	委員会費（3回、宿泊費・会場借上費）
合 計	2,000,000	

### 施設名称・所在地等の変更

視覚障害者生活情報センターぎふ（旧・岐阜訓盲協会点字図書館）

平成9年4月1日より

（所在地変更なし）

石川県視覚障害者情報文化センター（旧・石川県視覚障害者協会点字図書館）

平成9年4月15日より

新所在地： 〒920 金沢市芳斎1 - 15 - 26

TEL 0762 - 62 - 5855（変更なし）

FAX 0762 - 22 - 1832（変更）

### 訂正とお詫び

前号（NAIIV第10号）に掲載された機械化委員会開催の記事に一部誤りがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。

- 1 委員会開催場所 石川県視覚障害者協会点字図書館
- 2 加藤俊和氏は、てんやく広場ホストセンターを代表しての参加ではなく、非公式なもの

# 平成9年度 点字指導員講習会 (指導員研修会)

## 【開催要項】

- 目的 点字指導員の資格を持ち、各施設や地域などで点字指導にあたっている指導員の更なる技術向上を目指す。
- 主催 社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会  
全国視覚障害者情報提供施設協議会（全視情協）
- 実施機関 社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会  
（担当 点訳委員会）
- 開催日 平成9年8月27日（水）～29日（金）
- 会場 アルカディア市ヶ谷（私学会館）  
〒102 東京都千代田区九段北4丁目2-25  
電話 03-3261-9921
- 受講資格 当協議会が認定した「点字指導員」の資格を有する者。
- 定員 50名
- 申込方法 受講希望者は、別紙「参加申込書」に必要事項を記入の上、5月31日（土）までに講習会事務局へ申し込んでください。（締切日必着のこと。遅れた場合は受け付けません。）
- 申込者への通知 申込者には6月初旬に受講について通知いたします。なお、申込者が定員を上回った場合は、当事務局で選考させていただきます。  
受講者には点訳実技の課題文（4種類）をお送りいたしますので、6月末日までに点訳して事務局へ提出して下さい。課題文の提出がない場合は受講できません。

受講料 15,000円(資料・昼食代等を含む)  
支払い方法については後日の連絡の際に詳しくお知らせいたします。

宿泊に 日程は別紙の通りですので、それに合わせて宿舎は各自でご用意ください。  
ついて 視覚障害者の方や遠方で手配しにくい方は、事務局へご相談ください。

修了証 全講義に出席された方に修了証をお渡しいたします。

#### 講習会事務局

〒135 東京都江東区潮見2-10-10 カトリック点字図書館内  
日盲社協点字指導員講習会事務局  
TEL 03-5632-4428 FAX 03-5632-4454

この「平成9年度点字指導員講習会」は、日本自転車振興会競輪補助事業として開催されるものです。

#### 【日 程】

##### 8月27日(水)

9:30~10:00	受付
10:00~10:30	開講式・オリエンテーション
10:30~12:00	講義1 「視覚障害者の情報アクセス」
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~14:30	講義2 「点字と国文法」
14:30~15:00	休憩(コーヒープレーク)
15:00~17:00	講義3 「複合語の切れ続き～日本点字表記法から見た拍数と語意識の関係について～」

##### 8月28日(木)

9:00~12:00	点訳実技(グループ学習)
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~15:00	講義4 「中途失明者のリハビリテーション～コミュニケーションを中心に～」
15:00~15:30	休憩(コーヒープレーク)
15:30~17:00	講義5 「点字の校正技術」

8月29日(金)

9:00～12:00	指導実技(グループ学習)
12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～14:30	講義6 「点字データ管理と編集技術」
14:30～15:00	休憩(コーヒープレーク)
15:00～16:30	講義7 「点字指導カリキュラム」
16:30～17:00	閉講式

## 実技内容

点訳実技	先に提出していただいた課題文の点訳例をあげて、実習する。
指導実技	あらかじめ与えられた課題について、一人10分程度の点字指導を行う。

## 講師名

- 講義1 . 長岡 英司 氏(筑波技術短期大学助教授)
- 講義2 . 塩谷 治 氏(筑波大学付属盲学校教諭・日本点字委員会委員)
- 講義3 . 藤野 克己 氏(視覚障害者生活情報センターぎふ館長・日本点字委員会委員)
- 講義4 . 宗 知英 氏(神奈川県ライトセンター)
- 講義5 . 河井 久美子氏(日本点字図書館)
- 講義6 . 点訳委員会委員
- 講義7 . 点訳委員会委員

# 平成8年度 活動報告

## 機械化委員会

委員長	河村 宏 (日本障害者リハビリテーション協会)
委員	秋葉 博子 (千葉点字図書館)
	荒川 朋子 (石川県視覚障害者情報文化センター)
	古田 圭 (日本点字図書館)
	辻郷美太郎 (長崎県立点字図書館)
特別委員	水野 舜 (金沢工業大学情報工学科)

(古田 圭氏は、平成9年1月31日をもって日本点字図書館を退職されましたので、機械化委員の任も1月31日をもちまして終了いたしました。)

### 【委員会の目的】

書誌データの標準化と施設間貸出しを推進し、利用者サービスの向上を目指すため視覚障害者情報提供施設間で利用できる図書目録(書誌データ)管理システム(仮称)の開発及び普及を行う。

### 【委員会開催状況】

- 第1回 平成8年5月25日(土)～5月26日(日)
- 第2回 平成8年8月20日(火)～8月21日(水)
- 第3回 平成8年9月30日(月)～10月1日(火)
- 第4回 平成9年1月13日(月)～1月14日(火)
- 第5回 平成9年3月10日(月)～3月11日(火)

### 【活動状況】

第3回までの委員会では、システムの基本構想の検討、データベース項目の確認および見直しを行い、図書目録(書誌データ)管理システム(仮称)のテスト版を作成し、全点協岡山大会(10月24日)において、デモンストレーションを行った。

後半の第4回・第5回は、テスト版のシステムに修正を加え、モニター版のシステムの制作とモニター用アンケート項目の検討を行った。

当初の計画からすると、モニターへの提供が遅れたが、平成9年4月には、モニター館へモニター用のシステムを提供する予定である。

また、「てんやく広場」および、他の委員会との連携の必要性が指摘されていたが、今後、必要に応じ、他の委員会からの委員を交え、委員会を開催する。

## サービス委員会

委員長	小野 俊己（日本点字図書館）
委員	工藤 孝雄（日本ライトハウス盲人情報文化センター）
	江尻 裕樹（京都ライトハウス点字図書館）
	下村 光子（静岡県点字図書館）
	川崎 弘（千葉点字図書館）
	内山 敏子（視覚障害者生活情報センターぎふ）

### 【活動内容】

- 1 第14回全国点字図書館実態調査
- 2 上記調査の集計・分析及び報告書作成
- 3 「点字雑誌一覧」「録音雑誌一覧」「サービス一覧」編集発行
- 4 児童点字図書（厚生省委託図書）の見直し
- 5 視覚障害者情報提供施設サービスの見直しの検討（標準化について）

上記5項目について以下の日程で活動を行なった。

第1回委員会 96年5月28日～29日（日本点字図書館）

内容：前年度の反省、新年度の活動内容・予定、アンケート項目の見直し・検討、本年度調査の作業日程・役割分担

第2回委員会 96年7月16日～17日（日本点字図書館）

内容：不明点・問題点等の相互確認・検討、集計作業の相互確認・検討、視覚障害者情報提供施設サービスの見直し・検討（1）

第3回委員会 96年9月10日～11日（岐阜訓盲協会点字図書館）

内容：アンケート27項目の各項目毎集計表の詳細検討（1）、全体集計概況表の詳細検討（1）、視覚障害者情報提供施設サービスの見直し・検討（2）

第4回委員会 96年10月29日～30日（日本点字図書館）

内容：アンケート27項目の各項目毎集計表の詳細検討（2）、全体集計概況表の詳細検討（2）、主要項目毎の分析・評価（1）、児童点字図書（厚生省委託図書）の見直し調査の検討（1）、視覚障害者情報提供施設サービスの見直しの検討（標準化について）（1）

第5回委員会 96年12月10日～11日(日本点字図書館)

内容：アンケート27項目の各項目毎集計表の詳細検討(3)、全体集計概況表の詳細検討(3)、主要項目毎の分析・評価(2)、児童点字図書(厚生省委託図書)の見直し調査の検討(2)、視覚障害者情報提供施設サービスの見直しの検討(標準化について)(2)、点字・録音雑誌一覧A B 0 1 収載について

第6回委員会 97年2月18日～19日(日本点字図書館)

内容：主要項目毎の分析・評価(3)、児童点字図書(厚生省委託図書)の見直し調査の検討(3)、視覚障害者情報提供施設サービスの見直しの検討(標準化について)(3)

実態調査について

調査にあたって第14回では、「てんやく広場」に関する質問を検討し、調査項目に新たに追加しました。

調査作業についての日程は以下の通りです。

- 1 調査票回収 6月末(督促締切7月10日)
- 2 不明点矛盾点のチェックと確認 7月末
- 3 集計表を各委員へ送付 8月中旬
- 4 矛盾点チェック(全員) 9月10、11日
- 5 コマの検討(全員) 10月29、30日

6月4日、91施設に調査票を発送し、未回答施設へ6月29日FAXで督促し、さらに7月9日を最終日として電話で督促を行なった。結果、回収は89施設になった。対象条件を満たさず集計対象から外した施設が3、未回収施設2、である。

なお、今年度からデータ入力について、アルバイトに委託する予算がつき、作業が大きく軽減した。

児童点字図書(厚生省委託図書)の調査について

毎年の実態調査では、データが不十分な為、改めて各施設の利用状況を分析し、配布見直しを提言する目的で調査を依頼した。

- 1 アンケート項目、用紙の作成は川崎委員が担当した。
- 2 対象は、委託図書配布施設(74)および毎年調査を発送している施設、併せて91施設、ならびに若干の盲学校図書室である。

盲学校調査は別に項目を作成し、各委員の聞き取り調査とした。

9月24日に発送を行ない、回収締切を10月9日、督促を10月18日とした。第14回調査報告の別冊として報告する。



## 各一覧について

## 点字雑誌一覧

編集については、第13回の形式と同じにした。また、「録音雑誌一覧」「サービス一覧」と施設名・住所・電話番号・FAX番号を照合し統一した。

各出版所の住所の確認などについては、5年毎とする。

## 録音雑誌一覧

編集作業は、毎回、視覚障害者情報提供施設以外で制作されている雑誌の制作者や、発行所の住所の確認などに手間がかかっているが、今回、国立国会図書館より、この調査データを基にAB01に収載したいと申出があった。委員会としては、活用が広がることになるので、喜ばしいこととして承認し、国立国会図書館の担当者と検討・確認の作業を行ってきた。

検討結果は以下の通りである。

- ・収録範囲は出版物会員配布に限定したものは除く
- ・NDCを付与し図書データに入れる
- ・誌名と出版社から検索ができるようにする

各施設への必要な項目の確認などは、国立国会図書館から依頼状を出してもらうようにした。

## サービス一覧

毎年大きく内容が変わるものでもないので、隔年の発行に決めたが、今年度は発行することとなった。

各一覧とも今年度の印刷発行を、外部に依頼せず経費を考えて委員会で行った。

## 録音委員会

委員長	村井 晶人	(日本ライトハウス盲人情報文化センター)
委員	天野 繁隆	(日本点字図書館)
	矢口 町子	(茨城県立点字図書館)
	恵美 三紀子	(JBS日本福祉放送)
	姉崎 久志	(神奈川県ライトセンター)
	熊谷 成子	(静岡県点字図書館)
	兄父 由紀子	(福井県視力障害者協会点字図書館)
特別委員	河村 宏	(日本障害者リハビリテーション協会)
	池田 防守	(プレクスター株式会社)

7年度までの委員、小暮淳氏（滋賀県立点字図書館）は所属が変わり、委員を辞退されましたので、8年度より熊谷成子氏（静岡県点字図書館）に新委員をお願いしました。また、河村宏氏は8年度よりデジタル化推進のため特別委員として参加していただいています。

### 【活動のポイント】

録音委員会の平成8年度の活動は、前年度に引き続き二つの大きなポイントがあげられます。

1. 音訳指導技術講習会（第1回 音訳指導員資格認定講習会 後期）の実施。
2. 録音図書のリジタル化の検討及び推進。

### 【活動経緯】

#### 第1回委員会

日時：平成8年5月9日（木）13：30～10日（金）13：00

場所：日本ライトハウス盲人情報文化センター

- 内容：
1. 音訳指導員資格認定講習会（後期）の準備進捗状況の確認、実施内容の確認
  2. 音訳講習テキストについての検討
  3. 全点協岡山大会についての検討
  4. IFLAの動向についての説明
  5. DAISYの操作についての説明
  6. 委員の補充について

#### 第2回委員会

日時：平成8年9月14日（土）13：30～15日（日）16：00

場所：日本点字図書館会議室（14日）、JBS日本福祉放送（15日）

- 内容：
1. DAISYの開発状況報告
  2. 全点協岡山大会の内容検討
  3. 音訳指導員資格認定講習会の細部検討
  4. 音訳講習テキストの検討

#### 第3回委員会

日時：平成8年10月23日（水）14：00～24日（木）12：00

場所：岡山アークホテル

- 内容：
1. 認定講習会準備の確認
  2. 岡山大会準備

## 第15回音訳指導技術講習会（第1期音訳指導員資格認定講習会 後期）

日時 平成8年11月27日（水）12時～11月29日（金）17時

会場 お茶の水スクエアA館 2F ルーム6  
〒101 東京都千代田区神田駿河台1-6

講義	教育原論	小林 一弘	（元盲学校長会会長）
	編集技法	姉崎 久志	（神奈川県ライトセンター）
	日本語音韻論	王 伸子	（専修大学助教授）
	ボランティア活動論	村井 晶人	（日本ライトハウス盲人情報文化センター）
	音訳評価法1、2	河合 和美	（名古屋ライトハウス盲人情報文化センター）
	音訳教育法	恵美三紀子	（JBS日本福祉放送）

今回の受講者は前期（62名）、新規受講者（8名）を含め70名。なお、認定者は52名でした。

## 第4回委員会

日時：平成9年2月27日（木）～28日（金）

場所：日本ライトハウス盲人情報文化センター

内容： 1. 音訳指導員資格認定講習会のまとめ作業  
2. 平成9年度音訳指導員資格認定講習会会場準備確認

## 【補足】

平成8年度に入り、プレクストークに関する研究費補助が決定し、「デジタル音声情報システム促進委員会」が発足しました。日盲社協として板山理事長、全視情協として川越会長、録音委員会より村井が委員として参加し、音声デジタル化の推進に協力しました。

また、録音委員会としてはこの委員会と協力し、全点協岡山大会での分科会、さらに特別研修会を実施し、DAISY、PLEXTALKの紹介・研修を実施しました。

以下に同委員会作成の資料（1996年発足時）を添付します。

## 「デジタル音声情報システム促進委員会」

目的：デジタル音声情報システムの標準化、実用化、促進。

内容：日本からの世界への情報発信・提案をもとに「デジタル音声情報システム（録音図書）」の開発と標準化の促進と、国内的、国際的普及に関する基本的な調査、審議を行う。なお、専門委員会を設け、技術的、実務的な調査、検討を行う。

構 成

委員長	社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会	理事長	板山賢治
委員	全国視覚障害者情報提供施設協議会	会長	川越利信
	社会福祉法人 日本盲人会連合	会長	村谷昌弘
	全国盲学校長会	会長	林 正義
	I F L A / S L B 東京大学総合図書館国際資料室		河村 宏
	社団法人 日本図書館協会	事務局長	酒川令子
	国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所所長		山内 繁
	社会福祉法人 日本点字図書館	常務理事館長	田中徹二
	シナノケンシ株式会社	取締役副社長	金子元昭

事務局

事務局長	プレクスター株式会社	常務取締役	池田防守
	I F L A / S L B 東京大学総合図書館国際資料室		河村 宏
	財団法人 日本リハビリテーション協会企画情報部長		丸山一郎

< 専門委員会 >

委員長	I F L A / S L B 東京大学総合図書館国際資料室		河村 宏
副委員長	シナノケンシ株式会社電子機器事業部	副事業部長	草野一俊
副委員長	財団法人日本リハビリテーション協会	企画情報部長	丸山一郎
	社会福祉法人 日本盲人会連合	情報部長	牧田克輔
	全視情協 録音委員会委員長		村井晶人
	社会福祉法人 日本点字図書館	課長	天野繁隆
	社会福祉法人 名古屋ライトハウス	音訳指導員	河合和美
	社会福祉法人 埼玉点字図書館		檉浦勝彦
	県立静岡大学	助教授	石川 准
	大学入試センター 研究開発部特殊試験部門助教授		藤芳 衛
	シナノケンシ株式会社 電子機器事業部	課長	西澤達夫
	T P B スウェーデン国立点字図書館	Mr.Kjell Hansson	
	R N I B 王立盲人援護協会(イギリス)	Mr.Chris Day	
	W B U 世界盲人連盟(ウルグアイ)	Ms.Norma Toucedo	
	E B U 欧州盲人連盟(オランダ)	Mr.Jaap van Leliiveld	

< オブザーバー > 厚生省社会援護局 専門官 寺島 彰

< 事務局 > 事務局長 プレクスター株式会社 常務取締役 池田防守  
 〒110 東京都台東区上野7-7-6 上野YHKビル7F  
 TEL . 03-3847-8281 FAX . 03-3847-8288

## 点訳委員会

委員長	細川 啓子（石川県視覚障害者情報文化センター）
委員	伊藤 邦子（日本点字図書館）
	染谷 洋子（カトリック点字図書館）
	高橋 恵子（千葉点字図書館）
	江藤 昌弘（神奈川県ライトセンター）
	山田 智直（視覚障害者生活情報センターぎふ）
	水谷 吉文（天理教点字文庫）
	櫛 玲子（大阪府盲人福祉センター点字図書館）

### 【活動状況】

今年度は「第16回点字指導員資格認定講習会」の開催と「点訳問題集（例文編）」の発行を、委員会の柱として活動してきました。

#### 1. 第16回点字指導員資格認定講習会

例年と同様な日程で「メルパルク大阪」を会場として8月21日（水）～23日（金）の3日間に亘って開催しました。当初受講申込者は152名で、それを課題文の提出で79名の受講者を決定しました。今年は認定試験問題のうち、校正問題を当日試験とし、点訳問題のみは持ち帰って後日提出する試験としました。例年は、ほとんどの受講者が合格する認定試験は、特に校正問題の成績がよくなく、受験者80名のうち、51人の合格にとどまりました。

認定証は平成9年3月31日付で認定合格者に送付されました。

#### 2. 「点訳問題集（例文編）」

昨年から編集を続けてきた問題集は原稿が完成し、昨年から1月にかけて、点訳委員以外で、点字指導担当などの職員8名にモニターをお願いしました。

その結果を踏まえ、平成9年2月11日（火）～13日（木）の点訳委員会において、編集作業を終了しました。

この「問題集」は、これまで行ってきた資格認定講習会の課題文、試験問題のうち、点訳問題を30回分にまとめたものです。すでに発行している「点訳問題集（基礎編）」、「同（応用編）」などの副教材として、ご利用下さい。

近々発行の予定で、取扱いは書籍管理事務局（名古屋ライトハウス盲人情報文化センター）です。

### 3. 委員会開催状況

6月26日(水)～28日(金)

- 会場 岐阜訓盲協会点字図書館・長良川スポーツプラザ
- 内容 1. 第16回点字指導員資格認定講習会について  
2. 「点訳問題集 例文編」について  
3. 全国点字図書館大会について

10月2日(水)～4日(金)

- 会場 岐阜訓盲協会点字図書館・長良川スポーツプラザ
- 内容 1. 第16回点字指導員資格認定講習会について  
(1) 合格者の決定  
(2) 試験問題の正答確認  
(3) 通信による添削指導について  
2. 平成9年度点字指導員研修会について  
3. 「点訳問題集 例文編」編集

平成9年2月11日(火)～13日(木)

- 会場 岐阜訓盲協会点字図書館・長良川スポーツプラザ
- 内容 1. 第16回点字指導員資格認定講習会について  
(1) 通信による添削指導について  
(2) 認定者の決定  
2. 平成9年度点字指導員講習会について  
(1) 日程と研修内容、講師の検討  
(2) 今後の作業予定について  
3. 「点訳問題集 例文編」発行について

#### 中部小委員会

- 6月6日(木) 会場 岐阜訓盲協会点字図書館  
第16回点字指導員資格認定講習会 校正課題文審査
- 9月11日(水) 会場 岐阜訓盲協会点字図書館  
第16回点字指導員資格認定講習会 資格認定試験校正問題採点審査

#### 関東小委員会

- 6月12、13日 会場 カトリック点字図書館  
第16回点字指導員資格認定講習会 点訳課題文審査
- 9月11日(水) 会場 カトリック点字図書館  
第16回点字指導員資格認定講習会 資格認定試験点訳問題採点審査

# 平成8年度 全視情協の歩み

平成8年

5月	9日	録音委員会
	18～19日	企画委員会
	25～26日	機械化委員会
	28～29日	サービス委員会
6月	6日	点訳委員会中部小委員会
	12～13日	点訳委員会関東小委員会
	12日	政策委員会
	12～13日	第44回全国盲人福祉施設大会（日盲社協大会、仙台）
	26～28日	点訳委員会
7月	13～14日	企画委員会
	16～17日	サービス委員会
	19日	デジタル音声情報システム促進委員会
	23日	点字出版部会との合同会議（大阪）
8月	5日	デジタル音声情報システム促進委員会
	20～21日	機械化委員会
	21～23日	第16回点字指導員資格認定講習会（大阪）
	25～31日	I F L A第62回総会（北京）
	26～30日	W B U世界盲人連合カナダ・トロント大会
9月	10～11日	サービス委員会
	11日	点訳委員会関東・中部小委員会
	14～15日	録音委員会
	28日	日盲社協企画委員会・理事会
	30～1日	機械化委員会
10月	2～4日	点訳委員会
	4日	デジタル音声情報システム促進委員会
	5～6日	企画委員会
	23～24日	録音委員会
	24日	政策委員会
	24～26日	第22回全国点字図書館大会（全点協大会、岡山）
	26日	政策委員会
	29～30日	サービス委員会
11月	27～29日	第15回音訳指導技術講習会 （第1期音訳指導員資格認定講習会 後期、東京）
12月	3～15日	手で見る彫刻展（第5回グループ蒼土、東京）
	6日	日盲社協理事会・評議員会 板山賢治さん叙勲記念特別講演会（東京）
	6～9日	第2回日盲社協芸術文化祭 愛 / EYEフェスティバル（大阪）
	10日	第2回日盲社協芸術文化祭 きらめきコンサート インタッチギャラリー（大阪）
	10～11日	サービス委員会

## 平成8年度 全視情協の歩み

平成9年

1月	13～14日	機械化委員会
	27～28日	企画委員会
	28日	企画委員・厚生省合同勉強会（東京）
2月	11～13日	点訳委員会
	18～19日	サービス委員会
	27～28日	録音委員会
3月	4～6日	デイジー評価会議（京都）
	6～7日	I F L A / S L B 常任委員会（京都）
	9日	企画委員会
	10～11日	機械化委員会
	27日	運営委員会（旧・政策委員会）
	28日	日盲社協理事会・評議員会

### DAISY、プレクストークの国際中間評価会議、京都で開催 全視情協主管でI F L A / S L B 常任委も

デジタル録音図書システムの開発・普及を進める国際会議「DAISY(デイジー)とプレクストークの実地試験に関する国際専門家委員会」と「DAISYの国際共同開発機構の合同会議」、および「国際図書館連盟盲人図書館セクションの常任委員会」が、3月4日から7日、京都市のハートンホテル京都で開催されました。イギリス、ウルグアイ、カナダ、スウェーデン、スペイン、ドイツなど海外約20ヶ国の30人と日本の20数人が出席。デジタル音声情報システム促進委員会専門委員会の河村宏委員長（全視情協機械化委員会委員長）のリードのもと、DAISY（制作システム）とプレクストーク（再生装置）について、現在32ヶ国で行われている実地試験の報告検討やメーカーによる現状報告などが行われ、問題点を集約しました。会議の結果、今後、4月19、20日にスイスでデイジー開発の最終方針を決め、7月19、20日に東京でデイジーとプレクストークの最終評価会議を開催。8月下旬デンマークのコペンハーゲンで開かれる国際図書館連盟盲人図書館セクション専門家会議で国際基準を決定することになりました。

日本からは、厚生省の川井一心社会参加促進室長をはじめ、日盲社協の板山賢治理事長、日盲連の村谷昌弘会長、日本点字図書館の田中徹二館長、全視情協会長の川越利信などが参加したほか、現場担当者として全視情協録音委員会の村井晶人委員長が家庭内録音におけるデイジー導入の問題点を発表。6、7日に行われたI F L A / S L B 常任委員会は全視情協がホストとなり、会場の手配や経費負担、京都案内などを行いました。